第 19 回中小商工業全国交流・研究集会

つくろう！中小商工業者の力で平和で持続可能な経済・社会を

ＨＰ・メールニュース〈№４〉

2015 年８月５日

パネルＣ　「地域になくてはならない業者として輝こう」

問題提起＝佐竹隆幸・兵庫県立大学教授

中小業者を取巻く経営環境は、円安による原材料価格・仕入単価の上昇、消費増税後の個人消費の落込み、さらに人財の不足など非常に厳しい状況にあります。大企業と中小企業、都市部と地域の格差はますます広がっています。しかし日本経済全体を発展させるためには、地域経済の成長発展が不可欠です。そのためには中小業者が地域に根差した、すなわち地域密着型のイノベーションを図り、「地域になくてはならない企業」として存立することが求められています。

自転車販売とダイニングカフェ「ＲＥ：ＰＲＯＤＵＣＴＳ　ＰＲＯＪＥＣＴ」を経営する末瀬嘉廣さん

今回のパネルディスカッションでは、中小業者４名の個性輝く経営の実践事例から議論を深め、「地域になくてはならない」企業やお店になるには、どのように地域密着型経営を進めていけばよいかを検討していきます。

中小企業には「三つの疎外」があるといわれています。一つ目は「中小企業政策からの疎外」です。中小業者にも経営革新や第二創業への取組は必要であり、可能であるにも関わらず、自分たちにはまったく関係がないという意識があるのではないかということです。二つ目は「連携からの疎外」です。連携するには、資金や経営資源がないとできないと思われていませんか？　産学連携でも企業間連携でも、連携に参加するためにはそれを呼びかける場に行かないとどうにもなりません。地域密着の経営には、連携やネットワークを活かすことが不可欠です。三つ目は「ＣＳＲ（企業の社会的責任）からの疎外」です。地域の行事に寄付するだけでなく、その地域で仕事をしているということ自体がＣＳＲ（企業の社会的責任）です。これに加えて環境的な側面、社会的な側面での地域貢献を果たし、本業を通じて社会へのお役立ちを実践することが求められています。地域に根差した「地」的経営を実践しようとする中小業者にとって、お客様は、その地域の方が中心です。そうであれば、その地域でのブランド力を高めること、そして経営の質を高めることが重要です。いわゆる従業員・顧客・地域への「三方よし」の経営を実践することが地域で輝く企業・お店となるのです。

宿泊の申込みはお早めに

宿泊希望は㈱ツーリスト　イン神戸☎078-391-2481 への直接申込みとなります。手頃な価格帯のホテルから一杯になります。お早目にお申込み下さい。

〇各分科会での活動報告をお寄せください。「予稿集」の締め切りは 8 月 14 日（金）です。

商工交流会では、分科会での報告を分かりやすくするために「予稿集」を作成します。報告を予定されている方は、事務局までメールでレジュメや資料（Ａ４横書き数枚以内）をお送り下さい。メールアドレス info@zenshoren.or.jp

☆第７分科会「産学連携で切り開く新製品・新分野」

吉田喜一（東京都立産業技術高専名誉教授）井内尚樹（名城大学教授）

産学連携は新分野・新製品の開発ではもちろん、自然エネルギーを活用した開発への挑戦が次々と取り組まれています。チャンスをつかみ取った経験や新分野開発のポイントなどを議論します。また、消費者ニーズから求められる新製品開発の挑戦・経験を交流します。

また、神戸市立高専は産学公連携でたくさんの実績を持っています。高専と地元中小企業との共同製品開発の経験をお話しいただく予定です。会場からも活発な報告、ご意見、ご質問をお願いいたします。

*********《参加申し込みについて》******************

１、日時・開催場所

第１日：９月５日（土）12：00～　〔会場：神戸芸術センター・芸術劇場〕

【全体会】

〇講　　演・井内尚樹・名城大学教授

〇基調報告・岡崎民人・常任実行委員

〇特別報告①「産学連携の可能性」②「阪神淡路大震災から 20 年」

【パネルディスカッション】【憲法講座】15：30～18：00

Ａ：阪神・淡路大震災から 20 年、東日本大震災から 5 年目

Ｂ：地域再生の展望をつくる

Ｃ：いま、輝く地域密着の小企業・家族経営

「憲法講座」

醍醐聰・東京大学名誉教授＋石川康宏・神戸女学院大学教授

参加者交流会　（兵庫県民会館１１階ホール）18：45～参加費：5000 円

第２日：９月６日（日）

9：00～14：40**【分科会】15** 分科会〔兵庫県立大学・神戸商科キャンパス〕

２、参加費　　２日間：10,000 円、学生・院生 3,000 円

問合せ・参加申込は民商・全商連まで全商連☎03-3987-4391